

ART KISS LETTER

熊本市現代美術館 アート・キッスレター

2018 初夏
vol.85



巻頭言

リスボン地震とは何であつたかー熊本地震2周年にあたり

歴史的に見て、ポルトガルは日本とも縁の深い国です。そのポルトガルの首都リスボンが大地震に襲われたのは、今から260年以上も前のことです。地震とは全く無縁と考えられていたヨーロッパで起きたこの地震は、それまでの「揺るぎない大地」の概念や思想及び文化芸術の流れも大きく変えることになりました。リスボンは祝福された都と言われ、大航海時代以来栄華を誇ってきました。その都が1755年11月1日に大地震によって崩壊したのです。それは諸聖人を称える祝祭の日であり、地震は多くの信徒が祈りの最中に発生。想定されるマグニチュードは、8.5、9。宮殿、伽藍、そして家屋のおかたが瓦解し、無数の人々がその下敷きとなりました。さらに貴重な歴史的資料や、多くのルネサンスやバロック絵画が失われました。

大地の揺れの後、巨大な津波が襲い、難を逃れて河川敷や港のドックに集まっていた人々が飲まれ、そして次は火炎旋風となった火災が5日間続いたのです。その人口は27万人であり、最大9万人、つまり人口の3分の1が犠牲となったと言われています。

当時、リスボンは一大貿易都市であり、ヨーロッパ中の外交官や商人が集まっていました。まだ電気や汽車の発明前の時代、この大災害の情報は、彼等が母国に報告をし、やがてイギリス、ドイツ、フランス等から救援物資が送られてきたのです。

そして、もはや大地は盤石ではないという衝撃的な概念が広まります。この大災害の直後にヴォルテールは「リスボンの災禍に関する詩」を発表。ドイツの哲学者カントは、「地震はどこでも起こり得る」と地震論を書き、当時まだ6歳だったゲーテも「恐怖の悪魔が大地を席巻」と書き綴っています。ヨーロッパでは新しい様相を帯びた歴史が動き始めるのです。地震が自然災害を超え、時代精神の領域に入り込み、思想や科学や芸術の分野に影響を及ぼして行つたのです。熊本地震の体験もまた、変化と創造を生み出して行くことでしょう。

熊本市現代美術館館長 桜井武

Contemporary Art Museum, Kumamoto

2018.6.30[土]—9.9[日]

蜷川実花展—虚構と現実の間に—

CAMK
www.camk.jp

KUMAMOTO ART PARADE

総出品数
294点

第29回熊本市市民美術展
熊本アートパレード

審査員 山本太郎(ニッポン画家)

テーマ 「たいぎゃ よか」

会期:平成30年3月31日(土)~4月15日(日)

主催:熊本市現代美術館[熊本市・公益財団
法人熊本市美術文化振興財団]

協力:コラボレーターの会

テーマの「たいぎゃ よか」に沿った本当に
よか作品ばかりが集まり、とても楽しく審査
をすることができました。また、描くモチー
フ、扱うメディア、作品との距離感などがそ
れぞれの作品でもバラエティに富んでい
たのも興味深く拝見しました。その中でも注
目したのは丹念に取材を重ねたドキュメンタ
リー的手法の作品でした。あまりにも日常に
近いことがらは普段は目に入らず、いざ作品
を作る際には見落としがちです。その時代そ
の時代であまりにも普通すぎることは記
録にすら残らないことがあります。でもそう
した何気ない日常こそが後になってみれば大
切だということは良くあることです。熊本の
方々は様々な経験を積みながらそうしたこと
を大切に考えるようになってきているのかもしれ
ないと感じた審査でもありました。



井手宣通賞



橋田俊克《元気もらっとるばい!》
[平面部門]

モデルとなったおばあちゃんの明るい笑
顔や、元気にお仕事に励む、勤勉さや
たくましさといった魅力がストレートに伝
わってくる、素晴らしい作品です。作画
の方も、細部の描写力や、構図・色調な
どのレベルがとても高いと思います。

素朴なおばあちゃんと豪華な金の額縁と
いう、何とも言えない取り合わせの妙も、
アートパレードらしい見どころの一つで
すが(笑)、おそらく、おばあちゃんも作者
の方も、それぞれ長年1つのことに取り
組んで来られたであろう、その尊さが、
絵画の中で見事に表現されています。

熊本市現代美術館賞

有田有紀《蘭草 IGUSA /
論考(蘭染スクリーンへの投
影を通して観る伝統工芸。》
[映像部門]

熊本の特産品である蘭草(いぐさ)
に注目し、その素晴らしさを多くの
方に知ってほしいという熱意がとて

も伝わってくる作品です。蘭草で染めたスクリーンに、その染色の過程を記録した映像を投影
しているのですが、通常の美術館での展示であれば、染色作品と映像を別々にした方がすつき
り見える気もします。

しかし、あえて合体させている所がアートパレードらしいというか、「こう表現したい!」という
作者の情熱を感じました。ずっと見てみると、この展示方法も正解なのかもしれないと思える
ところが面白いと感じました。



アートパレード大賞 (熊本市賞)



つん《こちら、「あなぐまち、にじいろ団地」です。》
[立体部門]

作品講評: 山本太郎

大賞の選定はとても悩みました。この作品は1つ1つのキャラ
クターの造形が優れているなどと思っていましたが、実は、1つ1
つのキャラクターそれぞれに物語が描かれていることにとても
驚き、大賞とさせていただきます。これだけの時間をかけた
仕事をするなんて、作者の方はだいぶ変態です(良い意味で)。
めちゃくちゃ面白くて楽しい作品です。この作品を見ていると、
普段自分がリアルに暮らしている、隣の部屋の住人は一体どん
な人なんだろう?というところまで想像が広がっていくところが
素晴らしいです。

優秀賞

《慶びの日の為に》たいへん丁寧に作られた作品で、その細やかさや美しさが素晴らしいのですが、作者の方のコメントを読むと、その背景にあるストーリーが浮かび上がってきて、また別の見え方をする、忘れたくない作品です。

一娘の成人式に着付けをするのが、若い頃からの夢でしたが、体調不良で不可能になりました。どうにか慶びを形にしてお祝いをお願い、つまみ細工を始めました。自己流で試行錯誤しながら作った作品です。赤い敷物は、祖父から私へ贈られたおひなさまの物で、彩りを加えました。箱はカルトナージュという技法で作りました。この作品は、慶びの日の為に、娘への愛をいっぱい詰めた宝箱です。—
※応募コメントより、作者の許可を得て掲載。

《Heart Beat (鼓動)》1匹1匹の動物が細かく観察され、生き生きと描かれています。背景などもさらに緻密に描きこまれており、明るい蛍光色などを用いた色彩も独特で、作者の描く楽しさが伝わってきます。今回のテーマは、「たいぎゃ、よか」ですが、テーマにとっても合致する作品だと思いました。

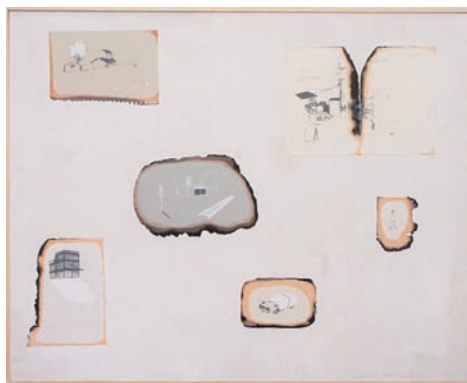
《記憶の欠片たち》なくしてってしまうような記憶の断片が、燃えて、破けていってしまふ。そのはかなさが印象的な作品です。熊本地震の記憶を重ねても読み取ることができるし、そうでなくても、風景や記憶というものは、いつの間にか消えていってしまうことがよくあります。日常の中で見過ごしてしまうような、気づかないこと、ささいなことに目を向け、絵画の中でうまく表現しています。

《熊本装飾古墳紀行》これからの可能性を見てみたいと思った作品です。装飾古墳から文様をとってきて作品化する着眼点が面白い。まだ、作品としては昇華しきれていない部分がありますが、更に表現を迫及して欲しいと思います。より良い作品を生み出して欲しいという期待をこめて選定しました。

《Tale of the Bible ART・聖書物語 (shell ART)》「貝合わせ」は日本独自の文化ですが、そこに西洋的なキリスト教の物語をミックスさせている所が、とてもユニークに感じました。工芸的な表現ですが、不思議とその二つがマッチしていて違和感がありません。‘ものすごく上手い’というわけではないのですが、その素朴さが魅力で、貝の内側だけでなく外側にも天使などのモチーフがイメージ豊かに描きこまれている、素敵な作品です。



斉藤ふみよ
《慶びの日の為に》
[立体部門]



平川いつか《記憶の欠片たち》
[平面部門]



河野基春《Heart Beat (鼓動)》
[平面部門]



奥村一美《Tale of the Bible ART・聖書物語 (shell ART)》
[立体部門]



三藤有希子《熊本装飾古墳紀行》
[平面部門]

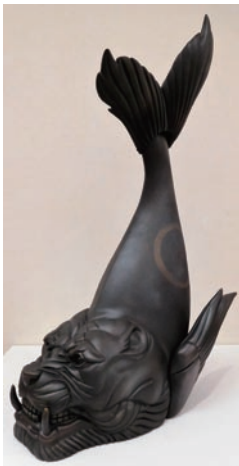
審査員特別賞 (山本太郎賞)



佐伯勝利《阿蘇原野 草小積み》
[映像部門]

自分の心のうちを表現したタイプの美術作品ではなく、フィールドワークや取材を通して対象に真摯に向き合った作品で、見ていてとても清々しい気持ちになります。テーマに選ばれた「阿蘇の草小積み」は、例えば、熊本地震などがあるうがなかりうが、いずれ消えていってしまうかもしれないものです。

特別な事件や事故はマスコミやニュースが伝えますが、こういうテーマは残りにくい。映像人類学や考現学的に見ても、とても貴重です。ただ、美術展の審査員としての立場からみると、テロップの入れ方など、もう少し「美術」っぽいとあると、なお嬉しいです(笑)。



福本竜太
《タイガーニャ》
[立体部門]



哲人工房 今井敏史
《鉄製ポスト『いいネ!』》
[立体部門]



堀川仁彦
《イッパイツマツルケン》
[立体部門]



坂梨壮《鳥》
[平面部門]



大勝工炉
《炭火焼き 焼き芋コンロ》
[立体部門]

「熊本アートパレード」名品展開催!

アートパレード・パレード GⅢ -Vol.123

会期：2018年6月13日(水)ー8月12日(日)

会場：熊本市現代美術館ギャラリーⅢ・
井手宣通記念ギャラリー

本展は、熊本アートパレードに長年ご出品いただき、多数入賞されてきた方を中心に、今後の活躍が期待できる方、'気になる作品'を出品されている方など、学芸員が審査に立ち会うなかで見つめてきた、「この方のこの作品が素晴らしい!」という逸品をご紹介します展覧会です。



奨励賞

《鉄製ポスト『いいネ!』》最初はポストだとは思いませんでした。作品が目に入った時に、反射的に笑ってしまったので、これは僕の負けだと思い、選んでしまいました(笑)。このポストに郵便を届ける方は、きっと楽しいでしょうね。

《タイガーニャ》何でこんな風になっちゃうのか(笑)。とても高い技術力がありながら、バカらしいことに真剣に取り組む姿が素敵です。お城がああなっている状況で、あえてこういう作品を出してくるという、とても気になる作品です。

《イッパイツマツルケン》この作品も、高い技術力があるにも関わらず、ダジャレを入れてくる所が良いですね。ヤノベケンジさんが審査をされた年に、大賞をとられたそうですが、僕も好きです(笑)。

《炭火焼き 焼き芋コンロ》廃材を使ったコンロですが、オブジェとしても洒落ていて'実用の良さ'がある作品です。実は、僕の友人が焼き芋にものすごくはまっていた、その美味しさをいつも力説しているので、気になってうっかり選んでしまいました(笑)。すみません。

《鳥》僕は「書」の専門家ではありませんが、この作品は「絵」として見たときに、一番構成がすっきりとしていて、とても良く見えました。好きな作品です。



奨励賞

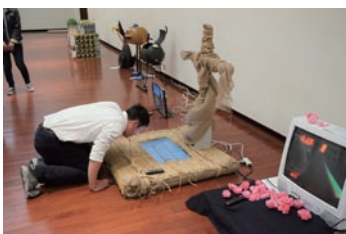
《平成下にい〜下に》作品の構図、構成の中で、縦、そして斜めに入るラインがとても良かった。写真の作品ですが、絵画的な構図がしっかりして、巧みにとらえられています。

《メッセージ》テーマをそのまま描いているので、「これでいいのか」と、とても選びにくかった作品です(笑)。塗りの技術は拙いですが、キャラクターのポップさと色合いが良く、選定しました。デザインの作品にはビニールのカバーがかかっていることがありますがない方がいいと僕は思います。

《いー♥》こちらも「これでいいのか」と最後まで悩んだ作品です。選んでいながら、自分でも正直、その魅力が言語化できません(笑)。しかし、何か気になる作品です。

《ちょっとだけ》一見して普通に心をひかれる作品です。点描で描かれていますが、紫を中心とした色合いもとても良いです。描かれた女の子の姿から、色々と想像がふくらんでいきます。

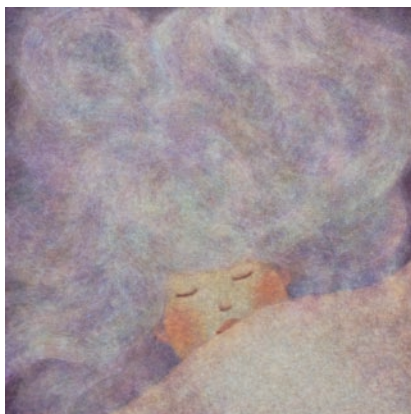
《草千里の馬Ⅱ》淡い色調できれいにまとまっていて、夢か現実か区別がつかないような、そんな印象を受けます。一見、弱いのですが、ずっと見ていられる作品だと思います。



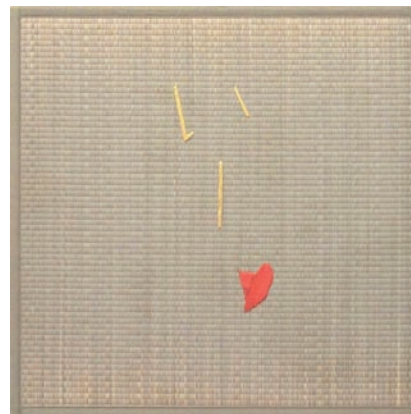
甲斐千尋《メッセージ》
[平面部門]



大川日出安《平成下にい〜下に》
[平面部門]



光武美沙希《ちょっとだけ》
[平面部門]



木由木《いー♥》
[平面部門]



Fusao《「草千里の馬Ⅱ」》
[平面部門]



村上優《A. 恋》
[平面部門]

コラボレーターの会特別賞

恋や愛を苦心して表現し、哲学があります。自分の思いを転化し、念入りによく描いてあります。

(コラボレーターの会代表)

※本作品は、コラボレーターの会の皆さんが選ばれました。

MUSEUM INFORMATION

2018 JAN - MAR

熊本城×特撮美術 天守再現プロジェクト展

2018.2.10

「熊本城を撮る！」 撮影ワークショップ

特撮熊本城展の関連イベントとして、「撮影ワークショップ」を開催。事前予約制で30名の方にご参加いただきました。講師には、本展で特撮美術監修を務めた三池敏夫さんをお迎えし、早朝8時半からワークショップをスタート。



前半は「ミニチュアの街並みや熊本城の撮影体験」と「自分の人型ミニチュア製作」の2つの作業を並行して行い、皆さん思い思いに楽しまわれていました。

後半は、三池さんが自ら動いてセッティングをアレンジ。ライトと赤いセロハンを設置することで、熊本城の後に美しい夕日が出現。その後も瞬く間に雲を製作され、目の前で行われる三池さんの見事な手際の作業に、参加者の皆さんも写真を撮りつつ感心した様子で見入っていました。夕日越しの熊本城はこのワークショップのみの貴重な撮影シーンとなりました。

またこの日はワークショップに加え、追加イベントとして三池さんによる講演会とトークも開催し、こちらにも多くの方に足を運んでいただきました。(A・T)

【ワークショップ参加人数30人】



2018.2.17

熊本城おもてなし武将隊 ギャラリートーク&撮影会

熊本城おもてなし武将隊によるギャラリートーク&撮影会を開催しました。今回、武将隊メンバーから加藤清正、細川忠興、黒田官兵衛、松井興長、あま姫、南条元清の6名が来場。気迫あふれる自己紹介の後、会場の皆さんと掛け声を合わせて一致団結し、ギャラリートークへ。各武将から、熊本城の石垣、天守閣、宇土櫓、江戸時代の熊本城と城下町についてご説明をいただきました。ユーモア



を交えつつ、歴史的なお話はとても勉強になり、大人から子どもまで楽しめるギャラリートークとなりました。説明の合間にはミニチュアセットとともに撮影会も行いました。来場者の皆さんはまるで鉄砲隊のように順番に入れ替わりながら撮影会を楽しみました。最後は、参加者全員で勝どきを上げて(美術館なので小さな声で)締めました。(A・T)

【参加人数60人】

2018.3.7

2万人セレモニ

特撮熊本城展の来場者は2万人を突破しました。記念すべき2万人目となったのは、沖縄の高専生の遠矢さんとそのお祖母さま。物作りが好

2018.3.8-3.18

特撮熊本城フォトコン開催

特撮熊本城展のミニチュアセットをテーマにしたフォトコンテストを開催しました。約60点の応募があり、皆さん様々な角度から風景を切り取り、モノクロ撮影や魚眼レンズの使用、画像合成まで、それぞれ工夫を凝らした作品が集まりました。一つのセットから数々の個性豊かな作品が生まれてくるという、ミニチュア特撮

の面白さが改めて感じられる作品群でした。三池さんの審査の結果、ばたばたやんさんの《言葉はいらない。》が大賞を受賞。今回の応募作品は全て、井手宣通記念ギャラリーで3月8-18日の期間、一般公開されました。(G・S)



ばたばたやん《言葉はいらない。》



ギャラリーⅢ(GⅢ)は、熊本九州のアーティストを紹介し、応援していくスペースです

GⅢ

2018.2.17

アートホーリーメン展2005・2018 ワークショップ「カッティング シートで光線をつくらう」

アートホーリーメン展の関連イベントとして、アートホーリーメンと一緒に美術館の中に光線をつくるワークショップを開催しました。今回は、実際にギャラリーⅢの会場で行われているのと同じ赤・黄・黒・水色の4色を使い、館内の3箇所をカラフルに彩りました。

まずは色ペンで紙に簡単な設計図を描きます。みなさんスイスイと作りたい光線のアイデアが浮かんでいる様子。次はその設計図をもとに、カッティングシートを切ります。細かいシートを自分の思い描く長さや



角度に切るのはとても難しく、百戦錬磨のホーリーメンのアドバイスを受けつつ、慎重にカットします。材料がそろったなら、それぞれの場所でシート貼りの作業。シールを貼る人と剥離紙をはがす人で息を合わせて、空気が入らないように注意しながらゆっくりと貼りつけていきます。貼り終わった瞬間には思わず「ふうー」と息をついてしまふほど、みなさん集中していらつしやいました。(K・M) 【参加人数9人】

アンドリュ・ワイエス 水彩画・素描展

2018.3.24-5.6

GⅢ-β0121 熊本地震復興支援特別企画

丸沼芸術の森所蔵

アンドリュ・ワイエス

水彩画・素描展

熊本地震から2年が経過する時期に合わせ、丸沼芸術の森から支援をいただき、ご所蔵のアンドリュ・ワイエスの水彩画・素描作品の展覧会を開催しました。丸沼芸術の森はモネをはじめとする多くのコレクションを所蔵していますが、ワイエスの水彩・素描・テンペラ(習作)の238点からなる「オルソン・ハウス・シリーズ」は重要なコレクションのひとつです。本展ではシリーズより40点を抜粋展示しました。30年の年月をかけてオルソン家とアルヴァロ・クリステイナを描き続けたこのシリーズは、ワイエスの色彩の変化、構図の変化、オルソン家との人間関係の成熟など、同一対象をライフワークとして描き続けることで得た特別



な軌跡が見どころです。開会式は、朝霞市の富岡勝則市長、熊本市の大西一史市長に加えて、ぽぼたん、ひごまる、くまモンといったゆるキャラも集い、和やかに終わりました。(H・T)

丸沼芸術の森代表

須崎勝茂による特別トーク

2018.3.24



開幕イベントとして、丸沼芸術の森代表 須崎勝茂さんによる特別トークが行われました。家業を営みながら、アーティストの育成や地域貢献に尽力する理由、ワイエスとの出会い、若き日の村上隆への支援などのお話、さらには、東日本大震災の折に通じた復興支援をさせてほしいと宮城県立美術館や茨城県近代美術館館で復興支援のワイエス展を開催したことな

月曜ロードショー上映報告 上映リスト(1/21~3/31)

【特集】世界のSFX/VFX!!

- 1月22日『来るべき世界』1936年 イギリス映画 89分
- 1月29日『猿人ジョー・ヤング』1949年 アメリカ映画 94分
- 2月5日『遊星よりの物体X』1951年 アメリカ映画 89分
- 2月12日『禁断の惑星』1956年 アメリカ映画 98分
- 2月19日『スパーマン』1978年 アメリカ映画 144分
- 2月26日『ターミネーター2 特別編』1991年 アメリカ映画 153分
- 3月5日『キートンのエキストラ』1930年 アメリカ映画 93分
- 3月12日『グッドモーニング・パピロン』1987年 イタリア・フランス・アメリカ映画 118分
- 3月19日『シャレード』1963年 アメリカ映画 113分
- 3月26日『汚名』1946年 アメリカ映画 101分

どをお話いただきました。また、「文化芸術が根付いている街づくり」「美術品は預かり物」などの言葉が来場者の皆さんの心に響いたようで、アンケートにも多くの反響がありました。(H・T) 【参加人数45人】

2018.3.24

丸沼芸術の森

ワイエス担当学芸員による

ギャラリートーク

展覧会関連イベントとして丸沼芸術の森ワイエス担当学芸員の中村音代さんによるギャラリートークが行われました。ワイエス作品が收藏されてよりずっと担当を務められてきた中村学芸員ならではの豊かな知識と、オルソン家やワイエスの写真、様々な資料写真を用いながらのトークでした。アルヴァロを象徴する青色(海の男としてかつて働いていた)や、ワイエス本人の墓の形に表れる



2018.2.10-3.5

特別展示

エリック・カール展



世界的ベストセラー絵本『はらぺこあおむし』で知られる絵本作家エリック・カール。日本でも多くの子どもに親しま

れています。2016年に起きた熊本地震からの復興へと歩を進めるなか、アメリカ・マサチューセッツ州にあるエリック・カール絵本美術館からの「絵本原画の展示を通じて復興の手助けをしたい」という思いを受け、本展覧会が開催されました。『はらぺこあおむし』をはじめ『だんまりこおろぎ』『月ようびはなにたべる?』など、国内を巡回していた「エリック・カール展『The Art of Eric Carle』」より12の絵本、50点の原画・作品を選出。連日たくさん親子や園児が展示室を訪れ、21日間という短い会期にもかかわらず3万人以上のお客様に足を運んでいただきました。子どもたちの声と笑顔に溢れた展覧会となりました。(Mi・I)

2018.2.12

KKTアナウンサー読み聞かせ

おとどけえほん特別版

村上美香アナウンサーによるエリック・カールの絵本の読み聞かせ



を開催しました。県内の幼稚園や保育園で人気のイベント「おとどけえほん」の特別版です。絵本は、『月ようびはなにたべる?』『パバ、お月さまとつて』『はらぺこあおむし』の3冊。村上さんのやさしい声で会場は安ら



いだ雰囲気になりました。(Y・M) 【参加人数200人】

2018.2.25

映画上映会

「エリック・カールコレクションはらぺこあおむし」

展覧会の関連イベントとして、エリック・カールの絵本のアニメーションを上映しました。上映作品は、『はらぺこあおむし』『だんまりこおろぎ』『パバ、お月さまとつて』『はらぺこあおむし』『うたがみえる、きこえるよ』の5本です。はらぺこあおむしが登場すると、拍手をするお子さんも可愛らしい食べっぷりに思わず笑い声もありました！最後は、『うたがみえる、きこえるよ』。音楽に合わせて絵の世界に色がついていき、想像が膨らむ楽しい時間と

なりました。

当日は、上映会と展覧会ともに非常にたくさんのご家族にご来場いただき、急遽追加上映を行いました。(K・O) 【参加人数400人】

2018.3.3

3万人セレモニー



エリック・カール展の来場者数は3万人を超えました。記念すべき3万人目のお客様は、熊本市在住の小学4年生の女の子と、そのご家族でした。セレモニーでは、KKTくまもと県民テレビ・社長より記念品としてエリック・カールのカタログやグッズがプレゼントされました。(A・T)

2018.3.4

ワークショップ

「読んで！作って！エリック・カールの絵本の世界へ」

長崎書店と当館のコラボレーション企画として、エリック・カールの絵本の世界を楽しむ2つのワークショップをリトルスターホール（長崎書店3F）で開催しました。1日目の「こどものためのワークショップ」では、エリック・カールの絵本原画でも使われているカラージュの技法を体験しながら、あおむしの絵を作りました。導入には、長崎書店さんによる絵本の読み聞かせがあり、そこから想像を膨らませて

いきます。物



では、あおむしの輪郭が描かれた台紙に色紙をちぎって貼っていき、最後に型紙をかぶせてクレヨンで塗ると、色とりどりのあおむしが完成。子どもたちは、たくさん色紙を自由にちぎり、色合いを感じて楽しそうに作っていました。

2日目は、「おとなのためのワークショップ」。テキスタイル・デザイナーのMikoさんを講師に、カットした野菜やフルーツを手ぬぐいにスタンプしてブックカバーを作りました。りんごやオレンジ、たまねぎ、れんこん、アルファベットの型、好きな形を、好きな色でスタンプしました。参加者の方の作りたいものから、Mikoさんが色の組み合わせなどをアドバイス。皆さん夢中になって制作されていました！(Y・M) 【参加人数71人】



2018.3.8-3.18

熊本城フォトコンテスト

2017作品展

特撮熊本



城展に合わせ、「熊本城フォトコンテスト」を開催しました。「熊本城フォトコンテスト」は、熊本城や城下の風景をテーマとして毎年開催されています。今年度は2017年度の応募作品の中から入賞作品として選出された12点を展示しました。会場では年間グランプリを決める一般投票も行われ、部賞佳彦さんの《再起》がグランプリ作品に選ばれました。会場ではこの熊本城フォトコンと並んで、特撮熊本城展のミニチュアを撮影した「特撮熊本城フォトコン」の応募作品と、熊本城の復興プロモーションを目的とする「201604160125KUMAMOTOJO熊本城復興ポスター」の展示も行われ、多くの方が足を運んでいました。(G・S)

新年度になり、美術館のHP
もリニューアルしました！
ぜひのぞいてみてください！



編集後記

記事でもご紹介していますが、熊本地震から2周年のタイミングに合わせて、熊本地震記録集『地震のあとで』を発行しました。「美術館を、美術館として開ける。」というサブタイトルがついていますが、「災害時において文化施設に何ができるのか」というのは私たち美術館スタッフが考え続けてきた問題であり、この記録集に記されている一連の取り組みは、それへの熊本市現代美術館なりの一つの回答です。災害は今後も必ず発生するものですが、この記録が少しでも誰かの役に立てばと願っています。

編集長 佐々木玄太郎

今号をもってアート キッス・レター (AKL) の編集を卒業となります。5年間、お付き合いありがとうございました。編集の中での思い出は、毎号の表紙を飾る出品作家さんの撮影です。いつも開会式後のタイミングで撮影しているのですが、担当になったばかりの頃には、うっかり撮り損ねたことも(後日、イベント時に撮影)。また、集合写真の時に起こる目つぶりやブレ&ピンボケ、作家さんを前にした「もう一枚お願いします…」という一言にはいつもドキドキしていました。不慣れなこともありましたが、今となってはすべて楽しい思い出です。美術館の今をAKLにかえてみなさんにお届けする編集の作業は、大切な時間となりました。今後のAKLも楽しみです。

担当 大田黒翔代

[執筆者一覧] *原稿の文末にイニシャル表記

富澤治子 (H・T) [熊本市現代美術館主査・学芸員]
坂本顕子 (A・S) [熊本市現代美術館主査・学芸員]
佐々木玄太郎 (G・S) [熊本市現代美術館学芸員]
池澤茉莉 (M・I) [熊本市現代美術館学芸員]
岩崎美千子 (Mi・I) [熊本市現代美術館学芸員]
丸吉ゆかり (Y・M) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]
大田黒翔代 (K・O) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]
三浦和紗 (K・M) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]
手嶋彩香 (A・T) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]

ART KISS LETTER アート・キッスレター

vol.85 初夏号 (2018年6月) 【無料】

発行人: 桜井武

編集: 佐々木玄太郎 大田黒翔代

デザイン: 石井克昌 (MOTOSHIKI)

印刷: シモダ印刷

発行: 熊本市現代美術館

http://www.camk.jp

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3

電話 096-278-7500 FAX 096-359-7892

【次号は夏号(8月発行予定)】

アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介します

Visitor's letter

熊本城×特撮美術

天守再現プロジェクト展

■見ていてとてもワクワクしました。匠の技が集結された熊本城のミニチュアだからこそだと思います。メイキング映像も最高です!ありがとうございます。

■すごかった!感動しました!完全に熊本が復活するまで長いけど、協力あって、熊本を元気にしたいと思いました!!

■来場する毎に、特撮美術の本気の仕事の細かい部分や設営インターンの方々の気持ちが伝わってくる素晴らしい展示でした。開始からあつという間の3ヵ月でした。

井手宣通記念ギャラリー

ユニバーサル・ミュージアム展

■ユニバーサルデザインに興味をもてた。(20代女性)

■作品をこれだけじっくり味わう事はなかなかないので貴重な体験となりました。(30代女性)

井手宣通記念ギャラリー

エリック・カール展

■子どもと見に行きました。絵本をゆっくり読めて、小さかった時のことを話すいいきっかけになりました。

■こんなに様々な手法を使ったカラージュ作品だとは気づきませんでした。

■とても素敵な展示でパワーをもらいました。(20代女性)

G III vol.120

arthorymen 2005-2018 展

■楽しくて嬉しくて毎日伺いました。(60代女性)

G III vol.121

アンドリュー・ワイエス水彩画・素描展

■滅びゆく物の美を感じ、人それぞれの(人の)一生を大切にしたいという思いが伝わりました。人知れずとも気高く生きたクリスティーンのことを思わずにはられません。(60代女性)

■無料でこのような作家の作品を多数観る機会を作っていただき感謝です。文化芸術の力を改めて感じました。今後も有名無名を問わずこのような企画・ギャラリートークをやって頂きたい。期待しています。(60代男性)

くまもと詩の朗読の会共催の自作の詩の朗読会

詩の朗読会

第168回「希望」【参加人数10人】

第169回「築く」【参加人数10人】

第170回「犬(戌)」【参加人数10人】



当館ボランティアによる子ども向け読みきかせ

CAMK読みがたり

第101回「エリック・カール特集 あおむしは、おなががいっぱい?」【参加人数163人】

第102回「おはながいっぱい」【参加人数36人】



親子向けの各種ワークショップ

街なか子育てひろば

2月15日 今田淳子「親子でアートを楽しもう!」

3月16日 クルンダー・ハーマン

「えいごであそぼう! ABC」

(*1月分延期開催)

3月23日 クルンダー・ハーマン

「えいごであそぼう! ABC」



美術館や学校でさまざまな体験イベントを実施

アートバス・アウトリーチ

○アートバス

2月16日 杉上小学5年生

展覧会鑑賞と「100万円札をつくろう!」WS



○アートプログラム

2月7日 城北小学校6年生

田口和代「陶芸でフリーカップをつくろう」WS

1月16日 田迎南小学校4年生

岡山直之「レインボーマン・ワークショップ」



2018.2.24

熊本地震復興支援コンサート

「アンサンブルの喜び! in熊本」

音楽を通して

熊本地震復興支援

援を行っている

「くまもと音楽

復興支援100

人委員会」主催

のコンサートを

開催しました。

出演者は、弦楽

五重奏のアンサ

ンブル クレイ

ンの皆さん。熊

本在住のヴァイオリ

ン奏者をはじめ、

関東各地からもメン

バーが集合。多

くのお客さまに弦

楽の優雅なハーモ

ニーをご堪能いた

だきました。(Y・

M)

【参加人数100人】



2018.3.13

STREET ART-PLEX KUMAMOTO

大道芸2018

今年もSTREET ART-PLEX「大

道芸」が熊本市中心市街地で開催さ

れました。現代美術館会場では、2

組のパフォーマーが出演しました。

1組目は、読みガタラーのしんし

ゆかさん。蜂のコスチュームに身を

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを

包み、ひと味違った読みがたりを



披露してくれました。絵本の読みが

たりの他、パネルシアター「とんでつ

たバナナ」では振付をしながら、子

どもから大人まで一緒になって歌っ

て踊りました。絵本・歌・ダンスな

ど多彩なパフォーマンスに、会場全

体が盛り上がりを見せました!

2組目は、京都を中心に活動する

舞踏団・非風のお二人。「ケツ能・ケ

ツ狂言」というお尻に能面を付けて

演じる独自のパフォーマンスを披露

してくれました。こちらも多くの方

が集まり、味わい深いパフォーマンス

に見入っていました。シールドな

【参加人数100人】

場面に笑いもありつつ、会場は不思議な雰囲気になり引き込まれていきました。(Y・M)

2018.3.18

第9回オハイエくまもと

とつておきの音楽祭

「オハイエくまもと」とつておきの

音楽祭」が花畑広場を始めとする街

なか9か所で開催されました。現代美

術館では、13組が出演し、合唱やピアノ、フルートなど春らしさを感じる素

敵な音色がフロアに響きました。中には、中国の楽器、二胡の演奏もありま

した。「蘇州夜曲」や「エーデルワイス」

が演奏され、自由で幅広い音楽の楽し

さが伝わってくるようでした。この他、

「仰げば尊し」「故郷」を会場の皆さん

で合唱しました。足を止めていただい

た皆さんにも、いろんな音楽や楽器と

の出会いがあった一日となったのでは

ないでしょうか。(Y・M)

【参加人数100人】



CAMK Exhibition Schedule

今後の展覧会スケジュール

渚・臉・カーテン チェルフィッチュの〈映像演劇〉

会期:2018年4月28日(土)ー6月17日(日)

会場:ギャラリーI・II

演劇作家・岡田利規(チェルフィッチュ主宰)が境界のありようをテーマにつくる6本の〈映像演劇〉によって構成される演劇公演/展覧会。

作・演出:岡田利規 映像:山田晋平

会場構成:長坂常(スキーマ建築計画)

出演:青柳いづみ、安藤真理、太田信吾、大村わたる、川崎麻里子、吉田庸、塚原悠也(contact Gonzo)

蜷川実花展ー虚構と現実の間にー

会期:2018年6月30日(土)ー9月9日(日)

会場:ギャラリーI・II

写真家の枠を超え、映画、デザイン、ファッションなど多彩な活躍をしている蜷川実花。本展では「虚構と現実」をテーマにアーティストの写真の本質に迫ります。

"蜷川実花"の作品世界を、全身で体感できるまたとない機会となるでしょう。



earthly flowers, heavenly colors (2017)

©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery

●オープニングアーティストトーク

作品への想いから、仕事の仕方、子育てまで。蜷川実花が、みなさんからの質問にお答えします。

6月30日(土) 13:30ー15:00

会場:ホームギャラリー

座席:160名(事前抽選制)

要展覧会チケット(半券可)

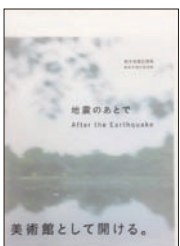
*事前に質問を一般公募します。

座席抽選申込等、詳細はHPにて告知。

熊本地震記録集『地震のあとでー美術館を、美術館としてあける。ー』

熊本市現代美術館では、2018年4月14日、16日に熊本地震から2周年を迎えるにあたって、熊本地震記録集『地震のあとで』を発行しました。発災から再開館、そして現在に至るまでの当館の歩みをまとめています。館内にも配架していますので、ぜひご覧ください。

(恐れ入りますが、一般販売は行っておりません。)



美術館として開ける。